

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
21131	治水等促進団体負担金事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	2
21131	準用河川改修事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	4
21131	河川水路事務事業	都市整備部	道路河川整備課	シートA	6
21133	がけ崩れ防災対策事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	7
33111	安全歩行空間整備事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	9
33111	安全歩行空間整備事業(補助)	都市整備部	道路河川整備課	シートB	11
33211	街路・幹線道路整備事業(補助)	都市整備部	道路河川整備課	シートB	13
51111	道路橋梁災害復旧事業(補助)	都市整備部	道路河川整備課	シートB	15
51112	生活道路整備事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	17
51112	生活道路整備事業(補助)	都市整備部	道路河川整備課	シートB	19
52213	宅地耐震化推進事業(大規模盛土造成地)	都市整備部	道路河川整備課	シートA	21

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・がけ担当	連絡先	948-6517		
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	松田 理奈
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	総務担当	連絡先	948-6477		
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	松田 理奈

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	21131	治水等促進団体負担金事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約	-		
取り組みの柱	未整備の準用河川について、整備を早急に進めます。			-		
総合戦略	4411	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)		取組み	① 松山圏域(松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町及び砥部町)が連携し、それぞれの地域が持つ特色を生かした魅力ある圏域づくりを進めることで、圏域の人口減少に歯止めをかけ、将来に向けて持続可能な地域社会の形成を目指します。
		政策	④近隣地域との連携による経済・生活圏の形成			
		施策	①連携中核都市圏構想の推進			
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等						
事業の目的(どのような状態にするか)	当該が所管する、河川や海岸に関する情報共有や知識の向上を図るための、全国組織(日本河川協会及び全国海岸協会)の会費や四国及び周辺市町で構成する治水事業の促進を目的とした協議会など(重信川・石手川治水同盟会、四国河川協議会)への負担金を納付する。					
背景(どのような経緯で開始したか)	日本河川協会及び全国海岸協会は情報共有や知識の向上を図る目的で加入。重信川・石手川治水同盟会、四国河川協議会は関係市町村で設置、本市は設置当初から加入。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	日本河川協会、全国海岸協会、重信川・石手川治水同盟会、四国河川協議会からの会費や負担金請求に基づき納付。なお、松山市長が四国河川協議会では副会長、重信川・石手川治水同盟会では会長を務めており、主体的に両会の活動を進めている。 ○日本河川協会:安全かつ快適で自然豊かな河川を実施するための活動を行う。 ○全国海岸協会:海岸に関する知識の普及、海岸事業の推進を図るための活動を行う。 ○四国河川協議会:四国の二級河川、準用河川にかかる治水事業を促進するため活動を行うことにより、市内の河川整備等が促進され、流域住民等を水害被害を軽減する。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費		河川費		R3 予算措置時期	当初
				目	項	目	項		
				R2年度		R3年度		R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				846		120		977	
決算額(B)(単位:千円)				846		120			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0		0		0	
	県支出金			0		0		0	
	市債			0		0		0	
	その他			0		0		461	
	一般財源			846		120		516	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算						・負担金補助及び交付金:120千円		・旅費:494千円 ・負担金補助及び交付金:483千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等								R3年度で廃止した河川水路事務事業から治水等促進団体関係の旅費を引継ぎ、R4年度から治水等促進団体運営事業へ名称変更。	
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		0		0	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	日本河川協会会費、全国海岸協会会費、重信川・石手川治水同盟会、四国河川協議会負担金を納付した。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	道路河川整備課職員の知識向上や他都市との交流による情報共有を図ることができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	間接的ではあるが、道路河川整備課職員の知識向上や他都市との交流による情報共有を図ることができ、治水対策等の推進に寄与できたと考えているため。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	特になし		環境変化、障害、課題等解決のため、R4年度で取り組む改善策		特になし	
R4年度の目標	引き続き、各組織への参画により、河川や海岸に関する情報共有や知識の向上に努める。 重信川・石手川治水同盟会の事務局として、国への要望活動等を行う。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		日本河川協会会費、全国海岸協会会費、重信川・石手川治水同盟会負担、四国河川協議会負担金を納付する。 四国地方治水大会(徳島市)、四国河川協議会総会(高知市)、四国河川協議会要望活動(東京都)等への出席、参加。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	要望参加回数	回	目標値	2	2	2	2	2	目標値	2	
			実績値	2	2	2	2	2	達成年度	-	
		%	達成度	100	100	100					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	本市単独で要望するより、四国治水期成同盟連合会など関係する団体等と協力し、積極的に要望していくことが重要であり、当該団体での要望活動回数が年度2回(夏・秋)となっているため。			
	本指標の設定理由	恒常的に国等へ要望を実施する必要があるため。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
	%	達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	関係団体と協調し、計画通りに年度2回の要望活動に参加している。									
	成果指標										
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・がけ担当	連絡先	948-6838			
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主査	神野 斎	
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・がけ担当	連絡先	948-6838			
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	奥野 真治	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	21131	準用河川改修事業	事業性質	1-2:自治事務(できる規定あり)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約	-		
取り組みの柱	未整備の準用河川について、整備を早急に進めます。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	河川法第100条					
事業の目的(どのような状態にするか)	準用河川改修事業計画に基づく浸水被害の解消を目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	洪水による災害発生の防止を行うことにより、流域住民の生命と財産を守る。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	①太山寺川改修工事に伴う測量設計業務委託 ②傍示川転倒ゲート巻上機等嵩上工事					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由			
始期・終期(年度)	昭和 61	~	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	河川費		目	河川改修費	R3 予算措置時期	当初	繰越
						R2年度	R3年度					
現計予算額(A)(単位:千円)						17,038			32,922			30,539
決算額(B)(単位:千円)						11,017			22,513			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳		国支出金				0			0			0
		県支出金				0			0			0
		市債				0			0			0
		その他				0			0			0
		一般財源				11,017			22,513			30,539
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算								・委託料:1,511千円 ・工事請負費:20,764千円	・委託料:6,500千円 ・工事請負費:10,000千円 ・公有財産購入費:2,200千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等								予算額のうち5,597千円は前年度繰越分	予算額のうち10,243千円は前年度繰越分			
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			6,021			10,409			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・太山寺川改修工事に伴う測量設計業務委託 ・傍示川転倒ゲート巻上機等嵩上工事											
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	・転倒ゲート巻上機を嵩上できたことにより、大雨時でも浸かることが防止できた。								
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	・大雨時でも地元改良区が操作可能になったため。									
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない						
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・県道辰巳伊予和気停車場線改築工事の進捗状況に起因する太山寺川の未改修区間の工事の実施。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			・県道辰巳伊予和気停車場線改築工事が進むことにより、太山寺川の未改修区間の工事実施に向けて、地権者への事業説明および用地買収、物件補償を丁寧に行う。					
R4年度の目標	・太山寺川の改修工事に伴う用地買収を進める。 ・天王川の転倒ゲート巻上装置修繕工事完成を目指す。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			・太山寺川の改修工事に伴う用地買収 ・天王川の転倒ゲート巻上装置の修繕工事					

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	太山寺川改修工事整備延長	m	目標値	-	-	-	36	36	目標値	36	
			実績値	-	-	-			達成年度	R5年度	
			% 達成度	-	-	-					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。			
	本指標の設定理由	太山寺川の河川改修の整備延長を表す指標であるため。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	太山寺川の改修工事に向け、測量設計業務が予定通り進んでいる。									
	成果指標										
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	総務担当	連絡先	948-6477		
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リーダー名	副主幹	菊池 誠一郎	担当者名	主任	松田 理奈
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	総務担当	連絡先	948-6477		
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	谷久 明孝	担当者名	主任	松田 理奈

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	21131	河川水路事務事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約	-		
取り組みの柱	未整備の準用河川について、整備を早急に進めます。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等						
事業の目的(どのような状態にするか)	生活環境保全のため市内全域にわたり、準用河川の改修等に従事する職員の庁費等を計上するもの。					
背景(どのような経緯で開始したか)	下水排水路等の整備にあたり、内部管理事務として開始。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	道路河川整備課職員の業務遂行にあたり、必要な知識、技術の取得、向上を図るため各種研修会への参加や書籍の購入等を行う。愛媛県下の3市2町で構成する重信川・右手川治水同盟会の事務局として、国への要望活動などを行う。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費		河川費		目	河川総務費	R3予算措置時期	当初
				項							
				R2年度		R3年度		R4年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				864		627		0			
決算額(B)(単位:千円)				155		21					
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			0		0		0			
	その他			31		0		0			
	一般財源			124		21		0			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						・旅費:1千円 ・需用費:20千円		なし			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等								R3年度で河川水路事務事業を廃止し、R4年度からは治水等促進団体運営事業及び準用河川改修事業に振り分ける。			
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		709		606			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	四国地方治水大会、四国河川協議会要望活動への出席・参加等について、新型コロナウイルスの影響で書面・Web開催や中止となった。					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	事業の中止等は、新型コロナウイルス拡大防止に伴うやむを得ないものである。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	4:どちらもいえない		左記の理由	内部管理業務のため		
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	特になし		
R4年度の目標			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・かけ担当	連絡先	948-6838			
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	技師	免取 伸弥	
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・かけ担当	連絡先	948-6838			
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	檜垣 敬子	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	21133	がけ崩れ防災対策事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約	431	元気な産業を応援し、成長する松山をつくります	
取り組みの柱	がけ崩れによる災害を防止するため、危険箇所の工事を実施します。				西日本豪雨からの一刻も早い復旧をはじめ、担い手の確保や地域・大学と連携した有害鳥獣対策など、松山の農業を守ります。また、ブランド商品の販路拡大、6次産業化の促進など、儲かる農林水産業を推進します。	
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律					
事業の目的(どのような状態にするか)	がけ崩れによる人家への被害を未然に防止し、地域住民の安全を確保する。					
背景(どのような経緯で開始したか)	異常天然現象時に、国庫補助の県営事業(急傾斜地崩壊対策事業)として、不採択の箇所で崩落により重大な被害を受ける恐れがあるため。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	国庫補助の県営事業(急傾斜地崩壊対策事業)として不採択で、高さ5m以上、傾斜角度30度以上、対象家屋1戸以上の自然がけについて、がけ崩れにより重大な被害を受ける恐れのある人家に居住している住民からの申請を受け、県費補助の範囲で防災対策を順次実施している。					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由	事業費の5%		
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	河川費	目	砂防費	R3 予算措置時期	当初	繰越	12月補正
									R2年度	R3年度	R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				387,741		306,010		202,883				
決算額(B)(単位:千円)				245,523		179,381		-				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0				
	県支出金			143,419		97,960		111,368				
	市債			72,700		56,900		64,900				
	その他			9,148		7,899		4,620				
一般財源			20,256		16,622		21,995					
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				委託料:11,026千円 工事請負費:166,771千円		委託料:5,000千円 工事請負費:196,058千円						
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				予算額のうち122,486千円は前年度繰越分 12月補正で86,000千円追加		予算額のうち104,658千円は前年度繰越分						
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B) 142,218		126,629						

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	新浜町がけ崩れ防災対策工事外21箇所(繰越11箇所・当初6箇所・補正5箇所)										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	1件の入札不調はあったものの、概ね予定通り実施できた。							
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、地域住民の安全確保に寄与している。								
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない					
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			特になし					
R4年度の目標	引き続きがけ崩れによる被害の防止に努める。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		がけ崩れ防災工事20箇所(繰越7箇所・当初7箇所・補正6箇所)					

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	がけの整備箇所数	箇所	目標値	10	14	11	12	7	目標値	—	
			実績値	8	14	10			達成年度	—	
			% 達成度	80	100	91					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。			
	本指標の設定理由	がけの整備状況を示す指標である。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
% 達成度											
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
% 達成度											
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	計画(年間約10件程度施工)に基づき、予定通りに整備が進んでいる。									
	成果指標										
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6476				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主任	重松 慎哉	技師	瀧口 将史
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6570				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	白石 剛史	技師	瀧口 将史

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(実施コード)	33111	安全歩行空間整備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	広域拠点となる交通基盤を整備する			重点プロジェクト	-	
施策	良好な交通環境の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	身近な交通環境の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	松山市中心部や地域生活拠点では、歩行者や自転車優先エリアの設定や拡充のほか、無電柱化や交通施策との整合性のとれた駐車対策などにより、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し		

根拠法令,条例,個別計画等	道路法, 道路構造令						
事業の目的(どのような状態にするか)	歩道整備や交差点改良により、交通安全を確保する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	交通事故発生防止を目的に、昭和43年に国で創設された交通反則通告制度に基づき納入される反則金収入を原資にした「交通安全対策特別交付金」を活用し、道路交通安全施設の設置及び管理を行っている。						
対象・事業内容(誰に対して、何をするのか)	事業対象路線に対し、主に以下3点を実施 1. 測量設計及び土地調査業務 2. 用地買収・支障物件の移転補償 3. 歩道整備工事・交差点改良工事						
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。			
始期・終期(年度)	平成	24	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	道路橋梁費		交通安全施設等整備事業費	R3 予算措置時期	当初	繰越
						R2年度	R3年度				
現計予算額(A) (単位:千円)						90,858	91,187			80,276	
決算額(B) (単位:千円)						48,276	57,263				
内訳 (単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0		0	
	県支出金			0		0		0		0	
	市債			0		0		0		0	
	その他			0		0		0		0	
	一般財源			48,276		57,263		80,276			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算						委託料:11,436千円 工事請負費:41,670千円 公有財産購入費:2,618千円		委託料:21,712千円 工事請負費:54,024千円 公有財産購入費:3,500千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						予算額のうち41,277千円は前年度繰越分		予算額のうち30,266千円は前年度繰越分			
予算執行残額 (単位:千円)						(A)-(B)	42,582	33,924			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・石井29・268号線、小野33号線の交差点改良工事 ・石井107号線の路肩改良工事 ・湯山21号線の待避所設置工事										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		年度内完成ができなかった路線もあるが、用地、補償契約や工事は計画的に進んでいる。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業の実施により、交通安全対策が進むため。						
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし。					環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		特になし。			
R4年度の目標	各路線について、用地買収、補償契約や工事発注を計画的に進める。					R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		・桑原57・58号線、環状線北部、久枝192号線、余土1・10号線の交差点改良工事 ・猿川本線、潮見33号線の待避所設置工事 ・小山田と客の曲線部改良工事 ・浮穴10号線、小野88号線、余土8号線の路肩改良工事			

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	各路線の交差点改良数の合計	角	目標値	13	3	2	4	3	目標値	-	
			実績値	9	4	2			達成年度	-	
			% 達成度	69	133	100					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。			
	本指標の設定理由	交差点の整備状況を示す指標であるため。									
	各路線の待避所設置数の合計	箇所	目標値	0	1	2	2	0	目標値	-	
			実績値	0	1	1			達成年度	-	
			% 達成度	0	100	50					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。			
	本指標の設定理由	待避所の整備状況を示す指標であるため。									
	各路線の路肩改良数の合計	箇所	目標値	0	0	1	3	1	目標値	-	
			実績値	0	0	1			達成年度	-	
% 達成度			0	0	100						
指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。				
本指標の設定理由	路肩改良の整備状況を示す指標であるため。										
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	用地、補償契約等の関係で、年度ごとの達成度に増減があるものの、概ね計画的に推移している。									
	成果指標										
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6570				
	部長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	仙波 ミカ	技師	中野 泰誠
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6570				
	部長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	仙波 ミカ	技師	藤田 遼

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	33111	安全歩行空間整備事業(補助)	事業性質	1-2:自治事務(できる規定あり)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	116	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム
政策	広域拠点となる交通基盤を整備する				重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト
施策	良好な交通環境の整備				主な取り組み	中心市街地のぎわいづくり
主な取り組み	身近な交通環境の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	松山市中心部や地域生活拠点では、歩行者や自転車優先エリアの設定や拡大のほか、無電柱化や交通施策との整合性のとれた駐車対策などにより、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。					
総合戦略	4222	基本目標 ④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)	取組み	② 全庁的な防災・危機管理体制の不断の見直しを行うとともに、災害時の避難場所の整備や備蓄物資、必要な資機材の整備を進めます。また、災害時の道路遮断の防止や電力・通信網の切断被害の軽減など、都市災害の防止のため、関係機関との協議の上で計画的に無電柱化を進めます。		
		政策 ②生活の質と都市力の向上				
		施策 ②安全・安心な暮らしの推進				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し		

根拠法令,条例,個別計画等	道路法, 道路構造令						
事業の目的(どのような状態にするか)	歩道整備により、歩行者・自転車の安全な通行を確保する。また、通学路整備により、通学児童の安全を確保する。また、無電柱化により、防災や景観に配慮した歩行者・自転車の安全な通行を確保する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	通学路整備については、平成24年度に実施した通学路の緊急合同点検の結果、危険箇所の安全対策として歩道整備が有効であると判断された路線について、地元要望書が提出された。また、第6期・7期無電柱化推進基本計画として位置付けされている。						
対象・事業内容(誰に対して、何をするのか)	事業対象路線に対し、主に以下3点を実施 1. 測量設計業務 2. 支障物件の移転補償 3. 無電柱化及び歩道整備工事						
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。			
始期・終期(年度)	平成	22	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	道路橋梁費		目	交通安全施設等整備事業費	R3 予算措置時期	当初	繰越
						R2年度	R3年度					
現計予算額(A)(単位:千円)												
						816,442		670,733			621,973	
決算額(B)(単位:千円)												
						388,718		395,879				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金				190,341		203,606		324,456			
	県支出金				0		0		0			
	市債				166,200		160,500		250,400			
	その他				50		0		1,337			
	一般財源				32,127		31,773		45,780			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算						委託料:76,733千円 工事請負費:309,781千円 公有財産購入費:4,490千円		委託料:69,392千円 工事請負費:536,464千円 補償補填及び賠償金:9,128千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						予算額のうち197,471千円は前年度繰越分		予算額のうち224,927千円は前年度繰越分				
予算執行残額(単位:千円)						(A)-(B)	427,724	274,854				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・松山環状線西部・南部の歩道整備工事 ・二番町線・中央循環線の歩道整備工事 ・鮎屋町護国神社前線の道路改良工事 ・河野五明線の歩道整備工事											
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	年度内完成ができなかった路線もあるが、用地・補償契約、道路整備・歩道整備工事や電線共同溝の設計業務は計画的に進んでいる。								
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、通学路及び無電柱化の整備が進むことにより、歩行者等の交通安全確保が図れるため。									
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない						
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	国からの交付金を受け実施しているため、内示率が低いと完成時期が遅れる可能性がある。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		松山都市圏道路整備促進期成同盟会等による中央要望活動の強化							
R4年度の目標	各路線について、支障物件の移転補償や工事発注を計画的に進める。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		・松山環状線西部・南部の歩道整備工事 ・二番町線の歩道整備工事 ・三番町線、千舟町空港線の電線共同溝整備工事 ・鮎屋町護国神社前線の道路改良工事 ・河野五明線の歩道整備工事							

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	各路線の電線共同溝整備延長の合計	m	目標値	2,370	2,370	2,370	2,570	2,770	目標値	3,990	
			実績値	2,370	2,370	2,370			達成年度	R10年度	
		%	達成度	100	100	100					
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	電線共同溝整備延長の合計が無電柱化の指標となる。			
	本指標の設定理由	電線共同溝の整備状況を示す指標であるため。									
	各路線の歩道整備延長の合計	m	目標値	13,123	13,258	14,504	15,858	16,348	目標値	19,788	
			実績値	10,870	12,208	13,069			達成年度	R10年度	
		%	達成度	83	92	90					
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	各路線で整備する歩道延長の合計が交通安全対策の指標となる。			
	本指標の設定理由	歩道整備状況を示す指標であるため。									
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	電線共同溝整備について、第6期区間は全て整備できた。									
	成果指標										
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6476				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主任	奥野 真治	主任	重松 慎哉
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6476				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	神野 斎	主任	重松 慎哉

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	33211	街路・幹線道路整備事業(補助)				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】					笑顔プログラム	115	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム
政策	広域拠点となる交通基盤を整備する							重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト
施策	交通基盤の整備							主な取り組み	交通ネットワークの強化
主な取り組み	幹線道路網の整備					市長公約	513	自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい松山をつくります	
取り組みの柱	空港・港湾などの交通拠点や幹線道路の整備など交通ネットワーク化の推進により、市民生活の安全性と利便性の向上を図ります。							コンパクトシティのシンボル広場として駅前広場を整備し、公共交通の利用を促すほか、歩行者の賑わいを中心市街地に取り戻します。また、JR松山駅周辺やインター東線など、社会基盤整備を着実に進めます。	
総合戦略	4215	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			取組み	⑤松山外環状道路の整備により、市内中心部の渋滞緩和や交通拠点間のアクセス向上に加え、物流の効率化による民間投資の誘発促進など、松山圏域の交流ネットワークの強化を図ります。		
		政策	②生活の質と都市力の向上						
		施策	①民間経済の活力創出と都市機能・居住環境の向上						
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)		1:有り				

根拠法令,条例,個別計画等	都市計画法、道路法、道路構造令									
事業の目的(どのような状態にするか)	中心市街地と基幹的な連絡道路となる都市計画道路や幹線道路の整備を行い、中心部の交通混雑の解消・緩和や通行の安全性を確保し、都市交通の円滑化や都市機能の強化を図ることを目的とする。									
背景(どのような経緯で開始したか)	社会資本整備総合交付金等の国費を活用し、街路・幹線道路の整備や関連事業、ソフト事業を総合的・一体的に実施している。自動車交通への過度な依存を抑え、交通環境の改善や移動しやすい道路環境の充実を目指している。本市の特徴である放射環状型道路網の構築に向けて、松山外環状道路や主要幹線街路の未整備区間を整備し、効率的な道路ネットワークの構築を目指す。									
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下4点を実施 1. 説明会等の開催や周知 2. 測量設計業務・土地調査業務の実施 3. 用地買収や支障物件の移転補償等の実施 4. 工事の実施									
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し		「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由		特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。				
始期・終期(年度)	平成	22	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	都市計画費		目	街路事業費	R3 予算措置時期	当初	繰越
						R2年度	R3年度					
現計予算額(A)(単位:千円)						371,930			498,859			414,760
決算額(B)(単位:千円)						197,810			262,458			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金					101,305			136,697			215,737
	県支出金					0			0			0
	市債					87,900			106,100			166,200
	その他					0						22
一般財源					8,605			19,661				32,801
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算									・委託料:73,868千円 ・公有財産購入費:57,340千円 ・補償補填及び賠償金:97,941千円			・委託料:44,971千円 ・公有財産購入費:85,838千円 ・補償補填及び賠償金:171,166千円
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									予算額のうち172,589千円は前年度繰越分			予算額のうち190,341千円は前年度繰越分
予算執行残額(単位:千円)						(A)-(B)	174,120		236,401			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・松山外環状道路(インター東線)の事業承認・認可 ・中之川通線の用地取得及び移転補償交渉・契約 ・本町宝塔寺線の用地取得及び移転補償交渉・契約											
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		調査や用地・補償契約は計画的に進んでいる。						
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		基幹道路の整備により、市民生活の安全性と利便性の向上を図ることができるため。							
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない				
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	国から交付金を受け実施しているため、内示率が低いと完成時期が遅れる可能性がある。 道路用地の取得に向けた地権者交渉が難航した場合は、完成時期が遅れる可能性がある。					環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			松山都市圏道路整備促進期成同盟会等による中央要望活動の強化			
R4年度の目標	・松山外環状道路(インター東線)の道路設計と土地調査完了を目指す。 ・中之川通線の用地・補償契約の年度内完了を目指す。 ・本町宝塔寺線の用地・補償契約の年度内完了を目指す。					R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			・松山外環状道路(インター東線)の道路設計、土地調査 ・中之川通線の計画的な用地・補償契約 ・本町宝塔寺線の計画的な用地・補償契約			

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標	
活動指標 (3つまで設定可)	松山外環状道路(インター東線)の整備延長	m	目標値	-	-	-	-	-	目標値	1,600
			実績値	-	-	-	-	-	達成年度	R10年度
		%	達成度	-	-	-	-	-		
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標						最終目標値の設定の考え方	道路整備延長の累計合計を目標値とする。	
	本指標の設定理由	本事業の目的とする指標であるため。								
	中之川通線の整備延長	m	目標値	-	-	-	-	-	目標値	219
			実績値	-	-	-	-	-	達成年度	R8年度
		%	達成度	-	-	-	-	-		
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標						最終目標値の設定の考え方	道路整備延長の累計合計を目標値とする。	
	本指標の設定理由	本事業の目的とする指標であるため。								
	本町宝塔寺線の整備延長	m	目標値	-	-	-	-	-	目標値	474
			実績値	-	-	-	-	-	達成年度	R8年度
%		達成度	-	-	-	-	-			
指標の種類	3.累計での増加を目指す指標						最終目標値の設定の考え方	道路整備延長の累計合計を目標値とする。		
本指標の設定理由	本事業の目的とする指標であるため。									
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
		%	達成度							
	指標の種類							最終目標値の設定の考え方		
	本指標の設定理由									
			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
		%	達成度							
	指標の種類							最終目標値の設定の考え方		
	本指標の設定理由									
			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
%		達成度								
指標の種類							最終目標値の設定の考え方			
本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	松山外環状道路(インター東線)は、平成30年度新規事業の為、目標値及び実績値が発現する工事着手までには数年を要する。								
	成果指標									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容										

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リダー名	主幹	村井 望	担当者名	主査	新 大輔	主任	楡垣 敬子
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リダー名	副主幹	村井 望	担当者名	主査	加地 幸徳	技師	村上 和宏

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(実施コード)	51111	道路橋梁災害復旧事業(補助)	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	快適な生活基盤をつくる			重点プロジェクト	-	
施策	居住環境の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	生活道路等の整備・維持管理		市長公約	431	元気な産業を応援し、成長する松山をつくります	
取り組みの柱	道路/パトロールを実施するとともに、市民ボランティアの活用を図り、道路やカーブミラーなどの交通安全施設の適切な整備・維持管理に努めます。また、ライフサイクルコストの縮減を図るため、予防的な修繕及び計画的な改修・更新を行います。				西日本豪雨からの一刻も早い復旧をはじめ、担い手の確保や地域・大学と連携した有害鳥獣対策など、松山の農業を守ります。また、ブランド製品の販路拡大、6次産業化の促進など、儲かる農林水産業を推進します。	
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)		2:無し	
根拠法令,条例,個別計画等		公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法				

事業の目的(どのような状態にするか)	台風等の自然災害により崩壊した市道の機能回復を目的とする。(令和2年7月豪雨災害対応)						
背景(どのような経緯で開始したか)	災害で被災した河川兼用護岸・道路側など市の道路構造物について、早期に復旧し市民の安全安心な交通を確保する必要があることから、災害復旧事業費国庫負担金等の国の支援を活用し、復旧事業を実施する。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	自然災害により崩壊した市道の道路施設に対し、主に以下3点を実施 1.被災箇所の調査及び復旧方法の検討(道路設計) 2.国の災害査定(事業採択) 3.工事の実施						
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由	特定の利益に繋がるものではなく、市道の機能回復を図るものと考えており、負担はない。			
始期・終期(年度)	平成	30	～	令和	3	終期の種別	1:事業の終了時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	災害復旧費		項	土木施設災害復旧費		目	道路橋梁災害復旧費		R3 予算措置時期	繰越	
				R2年度	R3年度		R3年度	R4年度						
現計予算額(A)(単位:千円)							341,271			113,515			0	
決算額(B)(単位:千円)							167,791			86,862				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金						97,239			43,132			0	
	県支出金						0			0			0	
	市債							53,800			31,000			0
	その他							0			0			0
	一般財源							16,752			12,730			0
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算										委託料:5,077千円 工事請負費:80,824千円			なし	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										予算額のうち113,515千円は前年度繰越分			災害復旧工事が、令和3年度に完了したため事業廃止。	
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			173,480			26,653				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	堀江204号線外10路線の災害復旧工事(令和2年7月豪雨災害対応分)					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	全11路線の災害復旧工事は、令和3年度に完了した。(令和2年7月豪雨災害対応分)		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	自然災害により崩壊した市道の機能を回復することにより、地域に貢献している。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	自然環境が変化し、豪雨災害が毎年発生するようになった。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		復旧工事が令和3年度に完了したため事業廃止となるが、災害査定マニュアル更新や研修は、今後、生活道路整備事業で実施していく。
R4年度の目標				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	災害復旧工事の完了件数	件	目標値	48	58	58	-	-	目標値	58	
			実績値	44	48	58			達成年度	R3年度	
		%	達成度	92	83	100					
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	平成30年7月及び令和2年7月豪雨災害に伴う被災路線について、道路河川整備課が実施する全災害復旧工事の件数を目標値とする。				
	本指標の設定理由	災害復旧への取り組み状況が示されているため。									
	活動指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	活動指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%			達成度								
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	平成30年7月の豪雨災害対応分の工事は、令和2年度中に完成した。令和2年7月の豪雨災害対応分の工事は、令和3年度中に完成した。なお、令和3年度は、豪雨災害対応する工事が発生しなかった。								
		成果指標									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リーダー名	主幹	村井 望	担当者名	主査	新 大輔	主任	榎垣 敬子
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	村井 望	担当者名	主査	加地 幸徳	技師	村上 和宏

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	51112	生活道路整備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	快適な生活基盤をつくる			重点プロジェクト	-	
施策	居住環境の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	生活道路等の整備・維持管理		市長公約			
取り組みの柱	市民の安全・安心な通行を確保するため、地元との事前協議などにより、効果的・効率的な市道の新設・改良を行います。					
総合戦略	基本目標	-	取組み	-		
	政策	-		-		
	施策	-		-		
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	道路法、道路構造令					
事業の目的(どのような状態にするか)	生活道路は、幹線道路を補完し、日常生活や救急活動を行う上で重要な役割を担う道路であることから、現状を踏まえ利用形態等に応じた効率的・効果的な道路の拡幅を行うことで、地域住民の安全安心な交通の確保や快適な生活環境を創出することを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	生活道路は、幅員が狭小で市民の安全安心な交通の確保が出来ていない路線が数多く見られるが、道路の拡幅には沿線の土地地権者の用地提供が必要なことから、地元代表者の要望申請により道路整備事業を行っている。 また、道路の財源は市の単独予算を基本としている。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下4点を実施 1. 生活道路整備事業要望書の受理 2. 事業の着手（道路設計、用地調査、建物調査の委託） 3. 用地補償（用地・補償費の算定、用地・補償費の契約、物件の移転と道路用地の登記） 4. 工事の実施					
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。		
始期・終期(年度)	～ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	道路橋梁費	目	生活道路整備事業費	R3	R3 予算措置時期	当初	繰越
									繰越			
				R2年度				R3年度				R4年度
現計予算額(A) (単位:千円)				293,456				160,163				747,517
決算額(B) (単位:千円)				206,129				134,906				
内訳 (単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金		0		0		0		347,675			
	県支出金		0		0		0		0			
	市債		62,800		0		0		299,100			
	その他		0		0		0		0			
	一般財源		143,329		134,906		100,742					
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				委託料:18,491千円 工事請負費:101,952千円 補償補填及び賠償金:13,068千円				委託料:161,320千円 工事請負費:534,424千円 補償補填及び賠償金:32,223千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				予算額のうち80,696千円は前年度繰越分				予算額のうち302,482千円は前年度繰越分 生活道路整備事業(補助)と統合				
予算執行残額 (単位:千円)				(A)-(B)				87,327				25,257

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	久枝149号線等の道路工事、測量設計等												
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下			左記の理由として良かった点,悪かった点など			道路線形に関する地元住民の合意形成に時間を要したが、進捗に関しては計画的に進んでいる。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		事業実施箇所は、道路幅員が狭小車両の通行に支障をきたしているため、道路整備を行うことで通行の安全を確保することが出来る。								
事業の公共性	必要性	1			1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1			1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	
R3年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	令和3年度以降に受付する要望については、生活道路整備事業実施要領に基づき、要望区間を評価表により評価し、25点以上は全線改良、25点未満は部分改良による整備の要望書を受理している。 そのため、令和3年度以降に受理した案件については、費用対効果のある整備が可能となる。						環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			令和4年度以降は、生活道路整備事業(補助)と事業を一本化し円滑な事業執行を図る。			
R4年度の目標	国からの交付金及び補助金を活用し、「工事完了延長」及び「生活道路整備事業要望書を受理した案件の事業完了件数」の達成率向上に努める。						R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			湯山10号線外36路線の工事、測量設計等の実施			

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標			
活動指標 (3つまで設定可)	工事完了延長	m	目標値	800	500	330	1,072	1,326	目標値	-		
			実績値	535	598	315			達成年度	-		
		%	達成度	67	120	95						
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	予算額に応じて、単年度で目標値を設定するため、最終目標値が設定できない。					
	本指標の設定理由	年度当初の工事完了予定延長を目標値、年度末の工事完了延長を実績値とすることで、工事の進捗率が把握できるため。										
	生活道路整備事業要望書を受理した案件の事業完了件数	件	目標値	410	419	418	430	442	目標値	-		
			実績値	288	306	318			達成年度	-		
		%	達成度	70	73	76						
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	毎年、要望書を受理し、件数が累積していくため、最終目標値が設定できない。					
	本指標の設定理由	年度末時点の平成14年度以降に要望書を受理した件数を目標値、そのうち完了した件数を実績値とすることで、事業の進捗率が把握できるため。										
			目標値						目標値			
			実績値						達成年度			
		%	達成度									
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値			
			実績値						達成年度			
		%	達成度									
		指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
		本指標の設定理由										
				目標値						目標値		
				実績値						達成年度		
		%	達成度									
		指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
		本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	工事完了延長は、目標値を下回ったが概ね順調に事業執行ができた。生活道路整備事業要望書を受理した案件の事業完了件数は、過去の要望書に対する取下げ書を受理することにより、目標値が低下したため達成度が増加した。										
	成果指標											
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	道路拡幅等により、車両及び歩行者の安全性・利便性が向上する。											

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リーダー名	主幹	村井 望	担当者名	主査	新 大輔	主任	榎垣 敬子
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	村井 望	担当者名	主査	加地 幸徳	技師	村上 和宏

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	51112	生活道路整備事業(補助)	事業性質	1-2:自治事務(できる規定あり)	事業区分	1:直営
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	313	個別プログラム	笑顔を守るプログラム
政策	快適な生活基盤をつくる				重点プロジェクト	みんなで守り助け合う「安心して暮らせるまちづくり」プロジェクト
施策	居住環境の整備				主な取り組み	耐震化対策の推進
主な取り組み	生活道路等の整備・維持管理		市長公約			
取り組みの柱	市民の安全・安心な通行を確保するため、地元との事前協議などにより、効果的・効率的な市道の新設・改良を行います。					
総合戦略	4311	基本目標 ④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり) 政策 ③人口減少等を踏まえた既存ストックのマネジメント強化 施策 ①官と民の既存ストックのマネジメント強化	取組み	① 公共施設等総合管理計画等に基づき、道路施設や市営住宅、漁港・港湾施設、上下水道、学校施設等の施設類型ごとに財源の見直しを踏まえた改修・更新等の具体的な対応方針を定める個別施設計画を策定し、マネジメントの強化に努めます。また、策定した個別施設計画を踏まえて総合管理計画を改訂し、内容を充実させます。		
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し		

根拠法令,条例,個別計画等	道路法、道路構造令						
事業の目的(どのような状態にするか)	生活道路は、幹線道路を補完し、日常生活や救急活動を行う上で重要な役割を担う道路であることから、現状を踏まえ利用形態等にに応じた効率的・効果的な道路の拡幅を行うことで、地域住民の安全安心な交通の確保や快適な生活環境を創出することを目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	生活道路は、幅員が狭小で市民の安全安心な交通の確保が出来ていない路線が数多く見られるが、道路の拡幅には沿線の土地地権者の用地提供が必要なことから、地元代表者の要望申請により道路整備事業を行っている。 また、道路の財源は国の社会資本整備総合交付金及び道路メンテナンス事業補助金を活用している。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下4点を実施 1. 生活道路整備事業要望書の受理 2. 事業の着手(道路設計、用地調査、建物調査の委託) 3. 用地補償(用地・補償費の算定、用地・補償費の契約、物件の移転と道路用地の登記) 4. 工事の実施						
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。			
始期・終期(年度)	平成	22	～	令和	4	終期の種別	1:事業の終了時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	道路橋梁費	目	生活道路整備事業費	R3 予算措置時期	当初	3月補正	繰越
				R2年度			R3年度			R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				388,514			576,203			0		
決算額(B)(単位:千円)				173,035			283,827					
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳 R4→予算内訳	国支出金		85,235		142,459		0		0			
	県支出金		0		0		0		0			
	市債		78,200		126,000		0		0			
	その他		0		0		0		0			
	一般財源		9,600		15,368		0		0			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算				委託料:16,197千円 工事請負費:256,696千円 補償補填及び賠償金:6,776千円			なし					
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				予算額のうち193,300千円は前年度繰越分 3月補正で184,700千円追加			生活道路整備事業へ統合					
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			215,479			292,376		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	湯山10号線等の道路工事、測量設計等					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	国の交付金及び補助金が、要望額の約9割以上の内示率であったため、計画的に進捗している。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	事業実施箇所は、道路幅員が狭小車両の通行に支障をきたしているため、道路整備を行うことで通行の安全を確保することが出来る。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	令和3年度以降に受付する要望については、生活道路整備事業実施要領に基づき、要望区間を評価表により評価し、25点以上は全線改良、25点未満は部分改良による整備の要望書を受理している。 そのため、令和3年度以降に受理した案件については、費用対効果のある整備が可能となる。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		令和4年度以降は、生活道路整備事業と事業を一本化し円滑な事業執行を図る。
R4年度の目標				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	工事完了延長(累計)	m	目標値	3,151	3,321	4,358	-	-	目標値	-	
			実績値	1,928	2,022	2,686			達成年度	-	
		%	達成度	61	61	62					
	指標の種類	1.単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	令和4年度から生活道路整備事業と統合し廃止することとなったため、最終目標値が設定できない。				
	本指標の設定理由	補助対象路線の全延長を目標値、当該年度末までの工事完了延長を実績値とすることで、事業の進捗率が把握できるため。									
	活動指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
活動指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	工事完了延長(累計)は目標値が増加したにも関わらず、実績値も増加したため、達成度は例年通りとなった。									
	成果指標										
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	道路拡幅等により、車両及び歩行者の安全性・利便性が向上する。										

令和4年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・がけ担当	連絡先	948-6539		
	部等長名	白石 浩人	課等長名	日野 恵司	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	永井 勝也
令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・がけ担当	連絡先	948-6539		
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	永井 勝也

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名 (施策コード)	52213	宅地耐震化推進事業(大規模盛土造成地)				事業性質	2:その他	事業区分	2:委託	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】				笑顔 プログラム	個別プログラム	-			
政策	特色ある都市空間を創出する					重点プロジェクト	-			
施策	計画的な土地利用の推進					主な取り組み	-			
主な取り組み	市街地形成の推進				市長公約					
取り組みの柱	適切な都市計画制限による合理的な土地利用を図り、良好な住環境を整備します。									
総合戦略	基本目標	-				取組み	-			
	政策	-								
	施策	-								
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)		2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等										
事業の目的 (どのような状態にするか)	大規模地震時に滑动崩落の恐れのある大規模盛土造成地の位置や規模等を調査するとともに、市民の生命・財産を守るため、また大規模盛土造成地が身近にあることを知っていただき、防災意識の向上、災害の未然防止や被害の軽減及び復旧コストの軽減につなげることを目的とする。									
背景 (どのような経緯で開始したか)	阪神・淡路大震災や東日本大震災で、大規模な宅地造成地での崖崩れや土砂の流出による被害が発生したため。									
対象・事業内容 (誰に対して、何をやるのか)	松山市内に点在する、大規模盛土造成地の全箇所での安全性を把握するための調査「第二次スクリーニング」を進めるにあたり、対象箇所が多いことから、早期に第二次スクリーニングを実施すべき盛土の抽出及び調査の順位付けを行うための「第二次スクリーニング計画」の策定を行う。									
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由						
始期・終期(年度)	令和	3	~	令和	7	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般	款	土木費	項	都市計画費	目	都市計画整備費	R3予算措置時期	3月補正
				R2年度			R3年度		R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				0			3,000		3,000	
決算額(B)(単位:千円)				0			0		0	
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0			0		1,500	
	県支出金			0			0		0	
	市債			0			0		0	
	その他			0			0		0	
	一般財源			0			0		1,500	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				-			委託料:3,000千円		なし	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				-			3月補正で3,000千円計上		予算額のうち3,000千円は前年度繰越分	
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			0		3,000	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	「第二次スクリーニング計画」を委託発注した。									
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		契約直後に静岡県熱海市で、盛土地の土砂災害が発生したことから、大規模盛土造成地の一斉点検を行うこととなり、調査業務委託の着手が遅くなったが、直ちに危険な盛土が無かったことが分かった点は、市民に大規模盛土が身近にあることを知っていただき、防災意識の向上につなげられた。				
施策への貢献度 (目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		静岡県熱海市で発生した土砂災害を受けて、大規模盛土の一斉点検を行った結果、直ちに危険な盛土が無いことが分かったこと。					
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特に無し				環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		特に無し			
R4年度の目標	大規模盛土造成地第二次スクリーニング計画の早期完成を目指す。				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		大規模盛土造成地第二次スクリーニング計画の早期完成及び計画完成に伴う第二次スクリーニングの発注準備。			